

統計偽装にまさる、厚労省の「物価下落偽装」

追及している白井康彦氏（元中日新聞編集委員）を招き

えへふん

生活保護・年金裁判「原告を励ます新春のつどい」

「いかんよ貧困福岡の会」と「北九州市社保協」の主催で、生活保護と年金裁判の「原告を励ます新春のつどい」が開かれました。

第1部は白井康彦氏が「生活保護削減のための物価偽装をただす」と題して、生活保護費を引き下げるために、厚労省は、統計偽装により実際よりも物価がさがったようにみせかける操作をしたと講演（下段参照）。

第2部の「原告を励ます新春のつどい」では、手品や福引きなどの催しもので歓談。

生活保護引き下げ違憲訴訟・年金引き下げ違憲訴訟に勝利しようと決意を固めました。



原告を代表して決意を述べる小倉生健会の毛利副会長

■厚労省が自民党に忖度、物価下落率を大幅偽装

12年の衆院選で自民党は生活保護費の「1割カット」を選挙公約にし、民主党から政権を奪取し安倍政権が誕生しました。

厚労省は直後に、08年～11年に物価が4.8%下落したと発表し、13年から生活保護費を平均6.5%、最大10%引き下げました。

「1割カット」を求める自民党に厚労省が忖度した形でした。

■偽装手法「その1」保護世帯のデータ使わず

この時期はテレビやパソコンの、性能に対する価格が大幅に下がった時期でした。厚労省は保護世帯が、あまりお金をかけないテレビやパソコンの割合を実態以上に大きく操作していました。

■偽装手法「その2」計算方式変更

従来のラスパイレス方式をパーシェ方式に変更。仮にラスパイレス方式なら下落率は2.3%になります。総務省統計局は、下落率2.4%としていました。

■生活保護費は、大臣の自由裁量ではない

裁判で国は、計算方式の変更を認めた上で、「保護費は大臣の自由裁量権」と主張して開き直りましたが、生活保護法第8条では、「大臣の定める基準」としながらも、その基準は「最低限度の生活の需要を満たすのに充分なもの」と定めています。

■ウソで、国民の死活問題をねつ造するな

厚労省の「毎月勤労統計」の偽装が大きな問題になっています。加えて、生活保護費の大幅引き下げでも、「物価大幅下落偽装」が行われていました。

小倉生健会



生活と健康を守る

一人はみんなのために、みんなは一人のために

ネットでは「偽造、ねつ造、安倍晋三」と言われています。ウソのない政治の実現を！



参院予算委で日本共産党 田村智子議員が追及

国：生活保護の削減・廃止の数値目標や達成度を地方に求める 北九州市：13年前に日本共産党の柳井誠市議が追及し中止に

日本共産党の田村智子議員は、3月26日の参院予算委員会で、国が生活保護の削減・廃止の数値目標や達成度の報告を自治体に毎年求めていることを批判し、北九州市での教訓を活かし、中止を強く求めました。

北九州市では、2006年2月議会で、柳井誠市議が数値目標を摘発し「目標設定は、生活保護法第7条の申請権を侵すもの」と追及し中止させていました。

田村氏は、過去に北九州市が受給を阻止する「水際作戦」で、自殺者と餓死者を出した背景には、保護の開始数よりも廃止する数を必ず多くする数値目標を持つ生活保護の削減目標があった。

事件後の検証で「要保護者の困窮状態や、急迫した状態を認識しながら、手を差し伸べることができなかった不適切な対応は、数値目標が実態として職員を縛っていた」と紹介し、数値目標の廃止を強く求めました。



ご存知ですか？

4月1日から“青い鳥はがき”の受付開始

郵便局では毎年この時期、重度障がい者の社会参加を支援するため、年間20枚の普通はがき（青い鳥はがき）を無料配布しています。

対象は・身体障害者手帳「1級」もしくは「2級」と、療育手帳「A」あるいは（1度）か（2度）を持っている方です。

手続きは、郵便局の窓口到手帳を持参して、住所・氏名などを申込書に記入。後日、記入した先に、はがきが郵送されて来ます。手帳があれば代理の方でもOKです。

メールやSNSが花盛りの時代ですが、手書きのはがきも嬉しいものです。

ところが、せっかくの制度なのに、最近では郵便局では一向に宣伝していません。手続き期間は5月31日までです。どうぞ、お忘れなく。

【問い合わせ先】 0120-23-28-86

<案内時間>

平日：8:00～22:00

土・日・休日：9:00～22:00

県議選で、会員の高瀬さん当選 大石さん惜敗



福岡県議会議員選挙が行われ、小倉生健会の会員である、高瀬菜穂子さん（小倉南区）が当選し、大石正信さん（小倉北区）は過去最高の10,085票を獲得したものの、わずか649票の差で惜敗しました。

両氏は「暮らし、福祉、最優先」を掲げ奮闘しました。医療・介護・生活保護など福岡県の役割が益々重要になっています。

お二人のような県議がもっともっと増えるよう私たちも頑張ります。